



学校評価だより

令和6年度 前期号

令和6年9月24日

京都市立正親小学校

校長 長谷川 英司

学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。

7月に、前期のアンケートにご協力いただきました。今年度は、児童・保護者・教職員とともに Forms を使って回答していただきました。初めての試みでしたが、多数ご協力いただきましたことに感謝申し上げます。

今年度は、それぞれの質問項目に対して「そう思う」「だいたいそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の4段階で回答していただきました。数値は割合(%)を示しています。

この結果を保護者・地域・教職員で共有し、アンケート結果やそれに対するご意見をもとに、本校の教育活動の中で、継続発展すべきところ、改善すべきところを明らかにし、今後の教育活動に生かしていきたいと思います。11月には、学校運営協議会理事会を開催し、この結果をもとに理事の皆様よりご意見をいただく予定です。

	評価項目	そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
徳①	学校が楽しい	児 71	26	2	1
	児童が、毎日楽しく学校へ通っている。	保 53 教 36	44 64	3 0	0
徳②	自分からあいさつをしている	児 51	43	5	1
	児童が、自分からあいさつをしている。	保 32 教 50	54 43	12 7	2 0
徳③	友だちにやさしくしている。	児 65	33	2	1
	児童が、友達に優しくしている。	保 47 教 50	50 50	3 0	0
徳④	たてわり活動が楽しい。	児 71	24	4	1
	児童が、たてわり活動を楽しんでいる。	保 54 教 64	44 36	2 0	0
徳⑤	「学校の決まり」を守っている。	児 56	40	3	1
	児童が、「学校のきまり」を守っている。	保 50 教 29	46 71	4 0	0
知①	勉強が楽しい。	児 58	35	5	2
	児童が、楽しく勉強している。	保 34 教 21	53 79	12 0	1 0
知②	すすんで学校での学習に取り組んでいる。	児 49	45	5	1
	児童が、進んで学校での学習に取り組んでいる。	保 32 教 29	51 71	15 0	2 0
知③	授業中考えたことを発表している。	児 38	41	18	3
	児童が、自分の考えたことを伝えている。	保 28 教 14	56 86	14 0	2 0
知④	先生や友達の話をしっかりと聞いている。	児 65	30	4	1
	児童が、人の話を聞いている。	保 27 教 7	62 93	11 0	0 0
知⑤	すすんで読書をしている。	児 65	26	7	2
	児童が、進んで読書をしている。	保 36 教 43	33 57	23 0	8 0
知⑥	家での学習をきちんとしている。	児 59	34	5	2
	児童が、家庭での学習をしている。	保 30 教 7	44 79	23 14	3 0

	評価項目	そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
体①	「早寝・早起き・朝ごはん」がきちんとされている。	児 51	37	9	2
	児童が、「早寝・早起き・朝ごはん」を守っている。	保 39 教 14	42 86	17 0	2 0
体②	すすんで体を動かしたり、運動をしたりしている。	児 70	20	7	3
	児童が、進んで体を動かしたり、運動をしたりしている。	保 55 教 36	32 57	12 7	2 0
	話したいことを先生に話している。	児 46	39	11	4
	学校の出来事などを家の人に話している。	児 64	28	5	3
	学校の出来事などについて親子で対話している。	保 47 教 29	45 71	8 0	0
	地域の行事に参加している。	児 37	27	22	14
	PTAや地域の行事に参加している。	保 23 教 14	43 72	30 14	5 0



これらのデータを本校の「めざす子ども像」に対する実現度として分析しました。また、児童・保護者・教職員（以下、三者）の数値を比較することで、より有効な手立てを追求していきます。

人の言葉に耳をかたむける子

徳②「自分からあいさつをしている」では、児童と教職員は同じような結果で、保護者の数値も「そう思う」「大体そう思う」の数値を合わせると9割近くが肯定的に回答しています。毎月の朝会で学校長が毎回あいさつについて児童に話をしたり、各学級でも朝、帰りにしっかりと挨拶をしたり、代表委員の児童が朝のあいさつ運動を行ったりすることで、あいさつの大切さについては十分に理解し、実践していると考えられます。また、「ありがとう」も自然に言える子どもたちが多い印象も受けます。



徳③「友だちにやさしくしている」では、三者とも9割以上が実現できていると回答しています。自分のことを主張するだけでなく友だちの話に耳をかたむけ、互いを理解しようという態度が身についていると考えます。これは当たり前のように難しいこともあります。折に触れ、優しくできるという事実を認めていきたいと思います。

知④「先生や友だちの話をしっかりと聞いている」でも、三者とも高い評価を得ていますが、児童の6割が「そう思う」と答えているのに対し、保護者や教職員は「そう思う」が1~2割と数値に差があることが興味深いと思います。「話を聞く」ことに対して大人と子どもの意識が違うのは当然ですが、子どもたちが話を聞いた後の行動が大人の求めるものと異なる場合「話を聞いていない」と判断しているのではないかでしょうか。しかし、子どもたちが理解できるように伝えられているのかという視点で考える必要もあるかもしれません。

みんなが笑顔の学校

徳①「学校が楽しい」や徳④「たてわり活動が楽しい」は、大変よい評価となり、学校としても一安心です。これまでの取組をさらに進めながら、児童がより楽しいと感じる授業作りや学校行事のあり方を工夫していきますので、子どもたちがしんどさや困りを抱え込んでいるときには、ぜひ学校にご相談ください。

知①「勉強が楽しい」では、教職員が肯定的である反面、児童や保護者は若干否定的な意見があることがわかります。児童や教員よりも保護者の「そう思う」の数値が低いのは、家庭においては勉強に対して児童の意欲が下がるので

は、とも考えられます。児童にとって勉強は時に「難しい」や「面倒だ」と考えることはあります。それを解決する力も身に付けることも大切です。学校としては、困っている児童に適切な支援ができているのか、一人一人に最適な指導ができるのか、などについて振り返り、見直す機会として校内研究に取り組んでいます。「課題や問題を自ら解決する」楽しさ、「わかる」面白さを感じられる授業や取組を工夫していきます。



自分で考え行動する子

知②「すすんで学校での学習に取り組んでいる」では、保護者の17%が否定的であることがわかりました。「自ら進んで」とはどのような姿であるかについても様々な考えがあるとは思いますが、一朝一夕で身につく姿ではありません。本校の校内研究では、「主体的な学び」について研修を重ねています。私たちが求めるのは、人やものとの関わりの中で、自ら働きかけることができる主体性であると考えています。ともすると、私たち大人の思い通りに行動できない子どもたちに対して「自分で考えて行動する」ことを求めがちです。しかしながら、主体的に行動するためには、児童がやってみたい活動、解決したい課題を自ら見つけることが重要なのではないでしょうか。児童が主体的に行動できるような場面を学習の中でつくれたらと思います。



学んだことをしっかり身に付ける子

知⑥「家の学習をきちんとしている」については、保護者や教職員の「あまりそう思わない」「そう思わない」の数値が比較的多く、家庭学習に不安を抱えているご家庭も一定数あることが覗えます。「宿題に時間がかかる。」「なかなか取りかかれない。」「自主学習で何をすればよいかわからない。」など、困っておられるご家庭も少なくないでしょう。ただ、昔から言われるように、予習・復習が大事なことは明らかですし、何度も繰り返さなければ身につかないこともあります。なぜ家でも学習するのかについて、子どもと話してみるのもよいかと思います。学校としても、家庭学習の多くを占める宿題については、質や量についても学校全体で議論する必要があると考えています。

知③「授業中考えたことを発表している」では、児童の「あまりそう思わない」「そう思わない」の数値が最も多く、本校の課題であるといえます。発表できていないと考える児童には、「考えはあるができない・しない」と「何を話せばよいかわからない」の大きく2つの要因があると思います。前者の場合は、大勢の前で話すのではなく、ペアや少人数での話し合いを取り入れて「発表」に対する抵抗が少なくなるように授業展開を工夫しています。また、後者についても「わからない」ことを周りに伝えることをきっかけとして、「話す」ことで思考を動かせるよう支援していきます。

また、学習したことをお家の人にや友だちに話すことで、自分の考えを整理したり、学力を定着させたりすることができます。お家でも学校での出来事を聞いて話し合っていただくことで、学んだことを身につけてほしいと思います。

学びのすべてを生かして問題解決する子

体①「早寝・早起き・朝ごはんを守っている」体②「すすんで体を動かしたり、運動したりしている。」については、児童が約1割、保護者が2割ほど「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答しています。基本的な生活習慣については、学校でも常に話をしていることですが、良いことだとわかつてもできないのは、様々な原因が考えられます。しかし、学年が上がるにつれて睡眠時間が短くなったり、長期休み明けに生活リズムが乱れてしまったりしたときに、それを自分の課題として捉えられなければ問題解決には至りません。それは改善すべきであると考え、自分で解決していくよう、ご家庭や学校でサポートしていけたらと思います。



	評価項目		そう思う	だいたいそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
三校 合同 ①	自分にはよいところがあると思う。 子どもが自分にはよいところがあると思うことができるよう働きかけている。	児	63	25	8	4
		保	32	59	9	0
		教	50	50	0	0
三校 合同 ②	難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している。 子どもが難しいことでも失敗をおそれないで挑戦することができるよう働きかけている。	児	55	39	5	1
		保	34	52	14	0
		教	50	50	0	0
三校 合同 ③	自分の夢や目標を持って過ごしている。 子どもが自分の夢や目標を持って過ごすことができるよう働きかけている。	児	67	23	8	2
		保	32	56	11	2
		教	43	57	0	0
学①	学校が、児童の良さや可能性を伸ばすよう取組を進めている。	保	33	57	8	2
		教	43	57	0	0
学②	学校が、学校・学級だよりやホームページなどで、取組の様子を配信している。	保	53	42	5	0
		教	64	34	0	0
学③	授業参観や学校行事などに参加している。	保	68	55	8	2
		教	50	50	0	0

二条中学校ブロック重点項目

三校合同①②③の項目は、それぞれ「①自己肯定感」「②主体性」「③夢・目標」について評価しています。小中一貫教育の柱として、この重点項目に対してそれぞれの学校で教職員一人一人が個人のめあてをもって取組を進め、年間3回の合同研修会でその成果や課題について話し合う場を設けています。3校とも子どもたちは概ね落ち着いて学校生活を送っているようです。しかしながら、3項目とも児童生徒の評価は学年が上がるにつれ数値が下がる傾向があります。思春期を迎えることを形成する年齢にさしかかれば、難しさを感じるのは当然です。だからこそ、9年間を見通して、地域や家庭と学校が連携してこの3つのことを大切にしていきたいと考えています。

夏休み作品展 アンケートのご協力、ありがとうございました

今年度もたくさんの保護者の皆様に来校していただきました。「すぐーる」で配信したアンケートにも多数ご協力いただき、子どもたちへの励ましや称賛の言葉をたくさんいただいております。「一生懸命制作していたのがわかる。」「夏休みにがんばって仕上げた作品はとても素敵だった。」「それぞれ好きなことや物が見える作品が多くて素敵な作品展だった。」「一人一人、発想豊かで新しい発見があり、自分の子供に体験させてみたいと思った。」など、皆様からいただいたご意見は、子どもたちにしっかりと伝え、今後の学習への意欲につなげたいと思います。

今年は YouTube の配信も実施いたしましたが、アンケートでも「作品展に行けなかったので、動画の提供は嬉しかった。」「学校まで行けない家族にも見てもらえるので良いと思う。」など、好評をいただきました。

また、期間や日時、展示・実施方法などについてのご提案などもいただきました。来年の作品展実施に向けて、参考にさせていただきます。

最後に、夏休み期間子どもたちの頑張りを支えていたいただいた保護者の皆様に、感謝申し上げます。

